

相談事例

ID: 02-01-011

相談タイトル

雨漏り修理工事について

Q: ご相談内容

築25年の平屋住宅。4月に居間天井から雨漏りした。新聞広告に掲載されていた業者に依頼をした。その業者がコーキング処理だけで直ると思う、代金は11,000円、とのことだったので、修理を依頼し修理後に代金を支払った。5月になり再び雨漏りしたため、再度業者に来てもらった。その後、屋根裏の痛んだ木材を入れ替え、防水シートを貼り、コロニアル屋根を改修した。その後も屋根裏でまだ雨漏りしている音がするので、業者に連絡したが来てもらえず、先日やっと見に来たが、最近では雨が少ないため9月になったらまた見に来ることになった。今までの工事費用の請求書が投函されていて請求書には雨漏れ改修工事・コロニアル屋根改修工事・出張費一式99,000円と記載されていた。工事費を支払う気持ちはあるが、今支払うと9月に見に来なくなるのではないかと不安。工事は大体3名で来ており3回分の請求。工事費は妥当か。

A: 回答

請求書の内訳が一式となっており詳細が分からないとのことですので、内訳（例えば出張費は1人に対し1日いくらか等）について業者に確認して下さい。

また、工事費用が妥当か否かについては、既に終わっている工事ですが、別の業者で見積を取ったうえで比較し判断する事となるので、妥当か否かは住いの相談センターでは回答できません。請求書に支払期日の記載は無いとのことですが、既に作業を行ったことでの費用請求なので、黙って支払わないでいると相談者が不利な立場になる可能性があります。9月に来てもらった後に支払いたいのであれば、その旨を現段階で、きちんと伝えておく必要があります。なお、今後は工事をする前に複数者から見積を取るようして下さい。